

私の見た日本のテレビ番組

盧 海 龍 (地質学専攻 博士課程3年 中国)

中国にいた時、テレビを見るのがとても好きでした。あの時、テレビは私の世界を知る窓口でもありました。来日してから、テレビを見ることはわたしの暮らしの中で欠かせないことになりました。

テレビは私の日本語を習う先生とも言えます。特にNHK教育テレビに身体障害者に対する手話放送が非常に日本語勉強のためになります。漢字に読み方の字幕が付けられているため、日本語を学ぶにとってもよい視聴材料だと思います。

NHK総合テレビ古館伊知郎がタレントだった“日本人の質問”及びフジテレビ局の“平成教育委員会”も私の好きな番組です。日本語学べることばかりではなく、その他の知識も得られます。

日本語の上達につれて、他の番組をも見ることになりました。その内最も好きなのはクイズ番組です。観光及び日本と世界の各国文化を紹介する番組をみることもとても好きです。そういう国へ行かないとしても、テレビ番組によって日本と世界各国を知ることができるようになり、また日本と世界各国の文化をより深く理解し得ました。ただし今まで日本のテレビでの娯楽番組が余り好きではありません。こういう番組はいつも女性と弱い人を対象に非常に俗っぽい喋りであざ笑うのです。とりわけある司会という人は扇子をふりまわしながら、気のむくままに他の出演者の頭を打つことは何といじめではないかと思えます。

日本テレビのマスコミ報道の早さにも驚きました。たとえば、地震発生後の数分間に、テレビで震級、震源地及び津波などの情報がながれます。人々を落ち着かせる役割を果たしているでしょう。だから日本人は地震があっても落ち着いているわけでしょうか。マスコミ報道の自由を唱えている日本国では、きっと事件の真実を慎重に報道するだろうと思うのに、実際に必ずそうだとは言えません。たとえば、前と同じフジテレビで香港を中国に返還及びその後の様子を語る時、香港の“自由がなくなった”と報道されていますが、事実で全くそうではなかったのです。

スポーツが大好きなのせいか、スポーツニュースはとりわけ興味をもってみます。夜家へ帰ってから、必ずスポーツニュースを見ます。元々野球がすきではありませんでしたが、今はだんだん中日ドラゴンズのファンになりました(私の名前にも龍の字があったからです)。スポーツニュースには、日本国内外の試合を報道する時“好プレー、珍プレー”などはとても面白いです。それ

によってスポーツの魅力を味わせることが出来ます。ただ国際試合の結果を報道するには日本選手の成績だけを報道し、外の選手の成績がほぼ報道されていないことはとても残念です。

日本のテレビは日本の社会と同じように“亭主関白”言えるものです。番組の司会はほとんど男性です。女性司会はただ慎重に補助役をつとめているようです。和田アキ子は例外であっても、よく男性に扮してふりをしています。そうしなければ、彼女が司会した番組の視聴率はさがるのでしょうかなあ。

日本で留学したこの数年の間、日本のテレビ番組は私の余暇生活を楽しませましたし、日本語の勉強もできます。それによって、日本社会の各階層に触れられる上、日本人と日本社会を一層深く理解できました。当今インターネットからたくさんの情報が獲得されるにもかかわらず、インターネットはただテレビ番組の新しいキャリアーとしてテレビの放送にサービスするが、テレビを代替することは絶対できないと思います。私のテレビを見る習慣も変わらないのです。日本のテレビ番組もさらにおもしろくなるように願っております。



筑波でのシンポジウムで松本教授(左)と共に。